

八戸高専 O G のロールモデル

社会で活躍する卒業生たち…研究室訪問編 ②

八戸高専 専攻科 産業システム工学専攻 電気情報システム工学コース 修了生

取材日：H30.02.09

<現在を中心に…ワーク編>

- ・現在所属の大学学部学科学年、研究分野、研究内容など

東北大学大学院 情報科学研究科 応用情報科学専攻

博士前期課程(マスターコース)1年(取材当時)

AR(拡張現実感)技術の研究

進学のきっかけは、

八戸高専の専攻科で研究したことをさらに深めるため。誰かや何かの役に立つシステムを学び、研究したいと思ったから。

東北大学の学部から大学院への進学者と、外部から大学院への進学者と比較すると、高専の専攻科や他大学からの進学者の方が多い。

さらに博士後期課程(ドクターコース)までの進学者は外部から進学してきた者や留学生が多い。

高専の専攻科卒ということで、学部から進学した人たちについていけるか心配だったが、プログラミングの知識などは、高専専攻科卒の方が上だった。学部から進学してきた人たちが、高専の本科3年生レベルで学習する専門の知識だったことに驚いた。

学部からの進学者は、高専出身の人たちに「専門性が高い」と敬意を抱いていることにも驚いた。

学部進学者に対して、幅広い知識ではかなわないことを感じるが、お互いに対して敬意を抱いているところがとても良いと思う。

入学して最初の頃はとても忙しかった。

研究室は片平キャンパス内にあるが、授業は青葉山キャンパスである日もあり、二つのキャンパスを地下鉄で移動したり、キャンパス内を往復する学内専用バスなどで移動したり

して工夫しながら授業を受けていた。

研究室には、忙しい時期以外はあまり夜遅くまでいないようにしている。生活のリズムを作って、研究とプライベートとを区別するように工夫している。

八戸高専専攻科の同じ専攻だった同級生で東北大学大学院に進学した人が他にもいるが、彼らとは、キャンパスも違っている人もいたり、研究室が違うため、頻繁に会うことはできないが、たまに同じ授業を取っていたりすると会うこともある。

インタビューの数週間前、久々にみんなで会ってみたくなったので、自分からみんなに連絡を取り、集まった。

お互いに近況報告などをして、ほとんどが博士後期課程(ドクターコース)には進学せず、就職活動を行っていることがわかった。1人は12月の時点で就職が決まっていたが、ほとんどの同級生は学校推薦がもらえるように努力していた。

自分自身も希望の就職先に就職できるように活動中であるとのこと。